

市原市認知症対策連絡協議会 第31回 例会 議事録

日時 2023年1月19日(木) 18:30~19:30

場所 Zoomを使った例会

出席者 25名

書記 飯吉

内 容

(1) 令和4年11月13日(日)の「いちほら認知所あんしんフェスタ」の件

(1-1) 参加人数

ボランティア 51名

来場者 131名

(1-2) 募金額

6,355円

(1-3) 各担当ブースからの報告

小沢先生(医師として)

Case 1

相談者の兄弟が認知症の親と遠隔地に住んでいるというケース。
遠隔地に住んでいる為、直接的な援助ができない。
そのためどこに相談をして良いかも分からずとても悩んでいる。

確かに一緒に住んでいるわけではないので今回のケースは医療機関等で相談することは難しいと思われる。そのためフェスタ等で気軽に相談できる窓口があるのは良い機会になったのではないかと考えられた。

Case 2

介護施設に勤めている職員。
認知症の方との接し方が分からない。
どうやったら勉強できるかなと悩んでいる。

NPO法人一歩一歩への相談として紹介した。

これまでのフェスタでの相談はMCI疑いの本人からの相談が多かったと思う。
今回はそれよりも深刻な相談があった。

村山様（地域包括支援センター職員として）

フェスタへの参加者は市原市内の9つの地域包括支援センターから協力をもらった6名が参加。相談の内訳は 市津・ちはら台圏域 2件 たつみ圏域 2件 市外 1件 であった。

それぞれの担当の地域包括支援センターへ情報提供を行い、今後必要であれば地域包括支援センターで対応させて頂く予定である。

その他の相談

JRの駅の職員より 「認知症が疑われる駅の利用者がいた。その方はどこに行きたいのか伝えられなかった。警察にも協力を依頼しているが他に協力してもらえる方法はあるか？」

地域包括支援センターで対応できることを伝えパンフレットを渡す。

永野先生（歯科医師として）

殆どが普通の説明（歯に関するトラブル）で済んだ。それ以外に以下のケースがあった。

Case 1

90代女性。歯の相談にのっていたら死にたいと伝えてきたケースがあった。

精神科病院のスタッフもいるのでそちらで対応してもらおう方法もとれるのではないか。

袴田様（広域支援センター、作業療法士として）

身体機能に関する相談が5, 6件あった。また、「脊柱管狭窄症」や「訪問リハビリ」、「地域の集いの場」等についての相談もあった。

藤盛様（認知症テストのブースとして）

参加者は4, 5名で50代～60代の方々であった。検査を行うと安心して帰って行かれた。

検討課題としては感染防止のためアクリル板を使用していたのであるが、音声が聞き取りづらくなってしまい質問文が聞こえないというトラブルがあった。

スピーカーを用いることによって回避できそうであった。

(1-4) アンケート結果

・どんな点が良かったですか？

- ・色々な職業の方と交流ができ、皆さんと一体になって声掛けすることができた点。
- ・オープンな雰囲気の人通りの多いところで出来た点が良かったです。
- ・色々な人が通行するので啓発に良いと思った。
- ・専門職の人に相談にのってもらえる機会があったこと。
- ・専門職同士が顔を合わせることができた。
- ・会場が広く使えたので、フェスタを開催している感じが出ていてよかった。
- ・だいたした薬局さんのハンドクリーム作りで音が出たので2階の人にも気づいてもらえた。
- ・マーブルチョコの一包化により3世代家族や祖父母孫の来店者に声をかけやすかった。
- ・専門職がそろっているのでどの相談にも対応ができたため来場者の興味を引いた。
- ・体験型のブースを外に設置したため目につきやすかった。
- ・色々な人に目に触れてもらえた。
- ・相談以外のブースもあって集客につながった。
- ・エンドユーザーと接する機会があまりないので直後の感想を聞ける点が良かった。
- ・広さも適正。使用に際してもうるさいと言われなかった。
- ・お客様の対象は違いましたが、普段会えない方に挨拶できた。

・どんな点が悪かったですか？

- ・会場設営の段取りがもう少し欲しかった。
- ・認知症という響きが会場に入るのに敷居が高くなってしまふかなと思った。
- ・ユニモは若い世代が多いので興味を引くことが難しいと思われた。
- ・専門職が多くてもったいない。
- ・呼び込みに「認知症」という言葉か「介護・医療・福祉の相談」とするか迷った。
- ・子供連れには「薬剤師体験」と声を掛けました。
- ・ユニモのポスターが目立たなかった。
- ・配置図は欲しかった。
- ・認知症テストのタブレットの音が小さかった。
- ・各展示ブースの小割を予め欲しかった。
- ・イベントポスターや市認協のチラシが欲しかった。
- ・必要な椅子やテーブルの配置図が欲しかった。
- ・人の流れのあるところでは、相談者の声が聞き取りにくい感じがしました。
- ・モール内開催、日曜日ということで高齢の方が少なかったのでは？
- ・ティッシュのQRコードに電話番号やイベント名も欲しかった。
- ・アクリル板とマスクで聞き取りにくい。
- ・中まで入っていくのに躊躇される方がいたようです。
- ・何をしているのかよく分からないという声もあった。
- ・イベント会場に中央道路が欲しかった。

- ・今後こうしてもらいたいという事がありましたら教えて下さい。
- ・定期的に様々なところでできたら嬉しいです。
- ・イベントの宣伝をもう少しできたら良かった。
- ・フェスタが開催されていること自体を広く知って貰うことができれば良いかなと。
- ・ティッシュの2次元コード以外にイベント名が欲しかった。
- ・アクリル板で聞き取りにくかった。
- ・相談よりも展示やショーの形式の方が分かりやすかったかも。
- ・高齢者の多い地域では相談ブースが良いかな。
- ・地域住民の状況に合わせたイベントの計画ができると良いのかな。
- ・若い人にも認知症を知って貰える場が作れると良い。
- ・対象者が増えることが考えられるので年での回数を2回にするとかの対策を。
- ・見せ方を考えて準備したい。
- ・お土産や体験できるコーナーを増やせるとよい。
- ・もっと内容が分かりやすいようにしたい。
- ・ティッシュとチラシを一緒に配ると分かりやすかったかも。

(2) Be Orange 助成金について

今年度は30万円の助成金への応募を行った。
投票の締め切りは 令和4年12月19日(月) 23:59 までであった。

結果は12月28日(水)となっていたが今年度も助成金の獲得はできなかった。

(3) 「RUN 伴+」説明会

令和5年1月27日(金) 19:00～
令和5年2月2日(木) 19:00～
令和5年2月4日(土) 10:00～

のいずれかに実行委員会の代表と関心のある実行委員会のメンバー最低一人の参加が必要であった。

市認協としては令和5年1月27日(金)の会に
福田 卓美氏、高橋 瑞穂氏、飯吉で出席予定である。

当日は福田氏、飯吉で出席した。
そのため、今年度の「RUN 伴+」の企画および運営は可能となっている。

今後の流れとして

- 2月 RUN 伴+実行委員の登録
- 3月以降開催スケジュールの決定
開催日の2か月前までに開催申請書を提出のこと

ということになっている。

(4) その他（今後のイベント開催等について）

・安田先生より

認知症のリハビリテーションについて学会発表を行った。

次回の総会（令和5年4月20日 第11回総会、第32回例会）にて学会発表の内容の講演を以来する。

フェスタには色々な業種が集まっているので他にも悩みを聞いて頂けるとありがたいのではないかと意見を頂いた。

・フェスタの結果を踏まえて市役所の出前講座（地域のニーズに合わせて）はどうか？

地域でのニーズに合わせて講座を開くことが出来るような気がする。

今はコロナがあると集まれないのではないかと。

公民館とかに元気なご老人が集まっているような方はあまり問題がないと思われる。

認知症の方に参加して頂こうと思っても参加してくれないと思われる。

認知症の方に色々なことをダイレクトに伝える必要はないのではないかと。

安田先生の行っているような便利なグッズや親の事とか相続のこと等のイベントを考えると良いのではないかと。

また、すべてボランティア（無償）で行っていると今後活動が続かなくなっていくであろう。何とかお金を稼ぐ法はないであろうか？

・小沢先生より

病院では以前から出前講座をやっている。これは仕事として行っている。

それを市認協とコラボして行うことができるか検討を行う。

そうすることによってろうさい病院からの依頼で市認協が講座を行い、報酬を獲得することができる可能性がある。

以上より、市認協で地域への出張イベントを企画することはニーズを発掘するのも困難であろうと思われた。それよりも既存のイベント（ろうさい病院の企画等）と一緒にやる事で報酬も獲得できる可能性がある。報酬はボランティアのモチベーション維持にも有効であり、またその一部を市認協への収入とすることができれば活動の資金となる。

現状ではそのようなイベントの行い方が現実的ではないかという理解になった。